

付表② 中国人慰安婦・性暴力被害者証言一覧表

* 氏名の横列に○が二箇所以上あるのは、証言が重複していることを示している。
 * 「裁判原告」欄に「第一次」「第二次」「性暴力」「海南島」とあるのは、以下のそれぞれの慰安婦裁判の原告であることを示す。
 (「第一次」：中国人「慰安婦」損害賠償請求訴訟、「性暴力」：山西省性暴力被害者損害賠償請求訴訟、「海南島」：海南島戦時性暴力被害者賠償請求訴訟)

1, 東海岸地域 (南京・上海周辺) * 場所の分類は蘇智良・陳麗非 “Chinese Comfort Women” の区分に基づく。

No	氏名 (英語)	生年 没年	場所	証言内容の概略	慰安婦か 性暴力か	裁判原告	蘇・中文本 (1999)	女性戦犯法 廷 (2000)	石田本 (2004)	展示ノブ (2008)	蘇・英語本 (2014)	班・映画 (2015)
1	雷桂英 Lei Guiying	1929? 2007	河北省 唐山	軍の売春宿とは知らず、10歳前後から子守・女中として住み込み、13歳で慰安婦に。この売春宿は日本人夫妻が経営。兵士はコンドームを使用していた。半年間拷問され、1943年末に慰安所から逃亡。	慰安婦						○ pp. 81-88	
2	周粉英 Zhou Fenyiing	1917 2008	江蘇省 如皋	日本軍の如皋侵攻 (1938) 直後に拉致誘拐。外出は許されず。慰安所は中国人女性が経営。毎月1元ほど貰った(展示パンフの証言と矛盾)。兵士は軍票で料金を支払い、日本人医師が定期的に検診。女主人からコンドームを渡されていた。3ヶ月後、傀儡政府書記の身請けにより解放。	慰安婦					○ p.13 お金を一度も受け取らず。 (証言矛盾)	○ pp. 89-93	
3	朱巧妹 Zhu Qiaomei	1910 2005	上海市 崇明島	日本軍の崇明島占領 (1938) 後、強姦され、将校専用の性奴隷にされた。普段は自分の家こいたが、トーチカの一角に連れ込まれ、週5回以上強姦された。日本軍が同島から撤退した1939年に解放。	性暴力						○ pp. 94-97	
4	陸秀珍 Lu Xiuzhen	1917 2002	上海市 崇明島	日本軍の崇明島占領後の陰曆2月 (1938)、誘拐され、軍の慰安所に連行された。施設の回りの散髪は許されていた。隊長に独占され、缶詰を貰うこともあったが、お金は貰わなかった。中国人夫妻が慰安婦を監督し、日本兵は強姦の際、コンドームを付けず。たまたまに中国人医師が検診した。陰曆5月に慰安所から逃亡。	慰安婦						○ pp. 98-101	

2, 華中・華北の戦闘地帯

No	氏名 (英語)	生年 没年	場所	被害状況 その他	慰安婦か 性暴力か	裁判原告	蘇・中文本 (1999)	女性戦況法 廷 (2000)	石田本 (2004)	展示パン (2008)	蘇・英語本 (2014)	班・映画 (2015)
5	袁竹林 Yuan Zhulin	1922 2006	湖北省 武漢	1940年7月、中国人女性(慰安所経営者の妻)に旅館で清婦婦を募集していると騙され、鄂隊の慰安所に監禁され「マサコ」という名の性奴隷とされる。日本兵はチケツを買ったようだが、1元も貰ったことはない。且本の規定では兵はコンドームを使うことになっていたが、兵の多くは使わなかった。41年4月、逃亡に失敗したが、藤村という将校専属の妾となり、慰安所からは解放され、食堂で働く。1941年、藤村の部下の西山により、藤村からも解放された。	慰安婦			○ pp.116-122 コンドーム 使用が普通 だった旨を 証言し、蘇の 英語本の証 言と食糧い あり。		○ p.16	○ pp.98-101	○ pp.47-51 p.80
6	譚玉華 Tan Yuhua	1928	湖南省 益陽	1944年陰曆9月、日本兵に誘拐され、将校専用の売春宿に監禁された。外出は許されず、武装した兵が監視していた。同年11月、両親に依頼された地元の花婿の親戚の尽力で帰郷。	性暴力					○	○ pp.108-113	
7	李秀梅	1927	山西省 孟県	1942年陰曆8月、日本兵により自宅から進圭村の日本軍駐屯地に拉致・連行され、ヤオドン(岩山住居)に監禁。5ヶ月間強姦を受けた後、大怪我により自宅に搬送。	性暴力	第一次 (1995)			○ p.35	○		
8	劉面換	1927 2012	山西省 孟県	1943年陰曆3月、日本兵により自宅から進圭村の日本軍駐屯地に拉致・連行され、ヤオドンに監禁。約40日間強姦を受け、病気になる。父親が銀と羊を送って解放。	性暴力	第一次 (1995)				○ p.35		○ pp.27-32 p.78
9	周喜香	1925	山西省 孟県	18歳の時共産党入党(村の婦連主任)、1944年3月、共産党の会合中に日本兵に襲われ、進圭村に拉致連行、民家に6日間監禁・強姦された。その後八路军により救出。	性暴力	第一次 (1995)				○ p.34		
10	陳林桃	1923	山西省 孟県	夫が八路军。1943年陰曆7月、日本兵により進圭村の日本軍駐屯地に拉致・連行され、「夫の居場所を吐け」と拷問の上、約20日間監禁・強姦された。家族が金を渡して解放。	性暴力	第一次 (1995)	○ pp.330-331			○ p.35		

11	侯巧蓮	1929 1999	山西省 平県	1942年陰曆3月、村長の父が八路军に協力していたことにより、日本兵に誘拐され、進圭村に拉致された。	性暴力	第二次 (1995)	○			○		
----	-----	--------------	-----------	--	-----	---------------	---	--	--	---	--	--

11	侯巧蓮	1929 1999	山西省 孟県	1942年陰曆3月、村長の父が八路軍に協力していたことから、日本軍に拷問を受け、進圭村に連行された。ヤオトンで連日強姦され、約40日後、銀700元を日本軍に払い解放。	性暴力	第二次 (1996)	○ p.331 侯巧良?			○ p.32		
12	郭喜翠	1927 2013	山西省 孟県	姉の夫が八路軍に協力していることを密告され、1942年陰曆7月、日本兵・清郷隊(地元の傀儡組織)に捕えられ、進圭村に連行。半月間強姦・輪姦され、家族が清郷隊に金を支払い解放。その後も都合3度、進圭村に連行・強姦。	性暴力	第二次 (1996)				○ p.34		○ pp.33-34 p.78
13	尹玉林 Yin Yulin	1922	山西省 孟県	1941年2月、村に来た日本兵に見つかり、自宅で強姦される。その後一年余り、自宅での強姦が続き、山の上でも強姦された。1942年陰曆9月に再婚、他村に移住して解放された。	性暴力	性暴力 (1998)			○ pp.37-44	○ pp.114-118		○ p.36, p.79
14	尹林香 Yin Linxiang	1919 2000	山西省 孟県	尹玉林の姉、被害状況同上。	性暴力							○ pp.37-38, 79
15	侯冬娥 (蓋山西)	1921 1992	山西省 孟県	抗日婦女救国会会長。「蓋山西」とは山西一の美人の意味。万愛花とともに1992年に来日する直前、亡くなった。山西省の性暴力被害者の象徴的存在。	性暴力		○ p.331-332			○ p.35		
16	万愛花 Wan Aihua	1930 2013	山西省 孟県	1942年、共産党入党、抗日副村長。同年初夏から翌年にかけて、日本兵に3回捕えられ、その都度進圭村に連行された。一度目は強姦はなかったが(裁判の証言と嘘い違いあり)、二度目からは激しい強姦・拷問を受ける。その都度逃亡を繰り返すが、三度目は瀕死の状態となり、日本軍に裸のまま川に捨てられたところを地元の人々に救われ、九死に一生を得る。	性暴力	性暴力 (1998)			○ pp.111-114	○ p.33	○ pp.119-125	○ pp.23-25 p.78
17	南二僕	1923 1967	山西省 孟県	1942年春、実家に押し入った日本兵下士官が強姦、近くの民家に拉致し軟禁、その後数ヶ月にわたり当該下士官により強姦を受け、遂には身籠り男児を出産した。その後逃亡するも、文化大革命中に「歴史的反革命」の烙印を押され、自殺。	性暴力	性暴力 (1998)			△ (養女・弟) pp.49-56 pp.73-76	○ p.28		

No	氏名 (英名)	生年 没年	場所	被害状況 その他	慰安婦か 性暴力か	裁判原告	蘇・中文本 (1999)	女性戦犯法 廷 (2000)	石田本 (2004)	展示パンフ (2008)	蘇・英語本 (2014)	班・映画 (2015)
18	張先克	1926 2015	山西省 孟県	1941年1月、日本兵・警備隊(中国人による対日協力組織)により西煙鎮の自宅から拉致、河東砲台のヤオトンに監禁され、約20日間強姦され続けた。家族が借金して工面した400銀元を日本軍に払い、解放。	性暴力	性暴力 (1998)			○ pp.83-86	○ p.29		
19	趙潤梅	1925	山西省 孟県	1941年4月、日本兵・警備隊により輪姦の上、西煙鎮の自宅から河東砲台のヤオトンに拉致・監禁、約40日間輪姦が続く。家族が土地や建物を売って得た210銀元を日本軍に差し出し、解放。	性暴力	性暴力 (1998)			○ pp.79-83	○ p.29		
20	高銀娥	1925	山西省 孟県	1941年4月、南社村に押し入った日本軍と警備隊により捕えられ、河東砲台のヤオトンに連行され、連日強姦された。1、2週間後、夫が200銀元を日本軍に渡し、解放。	性暴力	性暴力 (1998)			○ pp.76-79	○ p.29		○ pp.34-35 p.79
21	王改荷	1919	山西省 孟県	共産党員で、抗日婦女救国会主任。夫も抗日村長として八路軍に協力していた。1942年春、抗日組織の会議中に日本軍が急襲、拷問の後河東砲台のヤオトンに連行、連日強姦・拷問を繰り返す。20数日後、父親が土地・家財を売って得た120銀元を日本軍に渡し、解放。	性暴力	性暴力 (1998)			○ pp.114-117	○ p.30		
22	趙存妮	1918 2004	山西省 孟県	1942年陰曆8月、日本軍の急襲で捕まり、西煙砲台のヤオトンに拉致・連行され、連日強姦される。約半月後、家族が借金をして作った銀380元を日本軍に渡し、解放された。	性暴力	性暴力 (1998)			○ pp.111-114	○ p.29		
23	楊時珍	1924 2002	山西省 孟県	兄は日本軍に協力する商務会の会計をしていたにも拘らず、1941年、42年、日本兵が自宅に押し入り、輪姦された。その後も自宅で強姦されたり、下士官専属となり強姦が続き、現金を日本兵に渡して解放された。	性暴力	性暴力 (1998)			○ pp.44-46			
24	楊喜何	1919 1998	山西省 孟県	1942年暮れ、2人の日本兵が実家に押し入り、強姦。その後も1年近く同じ2人が実家に押し入り、強姦を繰り返した。	性暴力	性暴力 (1998)			○ pp.46-49			

3, 華南の前線

No	氏名 (英語)	生年 没年	場所	被害状況 その他	慰安婦か 性暴力か	裁判原告	蘇・中文本 (1999)	女性戦犯法 延 (2000)	石田本 (2004)	展示パンフ (2008)	蘇・英語本 (2014)	班・映画 (2015)
25	譚玉蓮 (英語)	1925	海南島 保亭県	黎族。1943年春、日本軍の拠点のある南林に「戦地後勤用務隊」として徴用されたが、日本兵によって強姦され、粗末な慰安所に一年以上監禁された。1945年半年ばに逃亡。	性暴力	海南島 (2001)						
26	黄有良 Huang Youliang	1927	海南島 陵水県	黎族。1941年陰曆10月頃、日本兵に自宅で強姦され、数日後村の兵営に監禁され、昼間は労働に従事し、夜は強姦された。翌1942年春、藤橋の慰安所に連行・監禁された。2年間その慰安所にいたが、検診を受けたこともないし、兵士がコンドームをしたのを見たこともない。お金を貰ったこともない。親戚が父親が死んだので葬儀に出させてほしいと日本軍を頼み、本人の偽の墓まで作って自殺したことにして、逃亡に成功。	性暴力	海南島 (2001)	○ pp.322-325			○ p.46 死んだのは母親、偽の墓も母子のもの (証言に食い違い)	○ pp.126-130	
27	陳亞扁 Chen Yabian	1928	海南島 陵水県	黎族。1942年の或る日、自警団によって徴用で駆り出され、日本軍の兵舎で昼間は労働に従事、夜は強姦された。数か月後、藤橋の慰安所に強制連行・監禁された。そこには数週間いたが、日本兵はコンドームも付けず、検診もなかった。外出は一切許されず、排世も室内の壺にした。母親の懇願で、自警団団長が日本軍に頼み、解放。	性暴力	海南島 (2001)				○ p.45	○ pp.131-134 本書の表紙を飾る写真は、この女性である。	
28	譚亜洞	1925	海南島	黎族。1941,2年頃、日本軍の「戦地後勤用務隊」に徴用され、駐屯地へ連行後、山の中で強姦される。駐屯地に監禁され、昼間は仕事、夜は強姦、その後も各地の慰安所を移動させられ、日本軍の戦前直前逃亡。	性暴力	海南島 (2001)						
29	林亜金 Lin Yajin	1924	海南島 保亭県	黎族。1943年秋、稲刈り中に他の女性3名と日本兵に拉致・連行され、日本軍の慰安所に監禁される。日本兵はコンドームを使わなかったが、ヒルをくれた。検診は一切なかった。5か月後、父親と親戚の懇願で、他の女性と一緒に解放された。	性暴力	海南島 (2001)					○ pp.135-140	

No	氏名 (英語)	生年 没年	場所	被害状況 その他	慰安婦か 性奴隷か	裁判原告	蘇・中文本 (1999)	女性戦犯法 廷 (2000)	石田本 (2004)	展示パンフ 展 (2008)	蘇・英語本 (2014)	班・映画 (2015)
30	陳金玉	1926	海南島	黎族。自宅に押し入った日本兵に、両親の前で強姦される。3ヶ月ほど山に隠れるも、日本軍の駐屯地に連行され、3ヶ月間監禁・強姦された。	性暴力	海南島 (2001)						
31	鄧玉民	1925	海南島	苗族。1943年頃、軍で徴用された際、駐屯地近くで農作業の際、日本軍将校に強姦され、以後2年間、毎日のように駐屯地の倉庫に監禁され、強姦された。体調悪化により解放。	性暴力	海南島 (2001)				○ p.18		
32	黄玉鳳		海南島	黎族。1943年末、日本軍協力者に脅迫されて日本軍に引き渡され、強姦された。駐屯地中の「日本娘の部屋」に監禁、取調べに逃亡。	性暴力	海南島 (2001)						
33	李連春 Li Lianchun	1924 2004	雲南省	1942年夏、市場で日本兵に集団強姦され、その後慰安所に連行・監禁される。日本兵はお金をくれなかったの で、昼間は日用必需品を得るために働いて稼ぐしかなか った。慰安所では1年ほどいたが、翌1943年に逃亡し た。	性暴力		○ p.157 写真のみ ?				○ pp.141-147	
34	韋紹蘭		江西省 桂林	1944年末、日本兵に軍刀を突きつけられ、トーチカに連行され、軍医の性病検査を受けた。兵隊はコンドームを使用していたが、使用しない者もいた。監禁三ヵ月後、逃亡。帰宅後、日本兵に強姦されて出来た息子を出産。	性暴力							

* 上欄に略記した典拠の、それぞれの正確な書名は、以下の通り。

「蘇・中文本」：蘇智良『慰安婦研究』1999、「女性戦犯法廷」：『女性国際戦犯法廷の全記録 I』2000、「石田本」：石田米子・内田知行編『黄土の村の性暴力』2004、「展示パンフ」：『ある日、日本軍がやってきた』2008、「蘇・英語本」：Su Zhiliang and Chen Lifei, "Chinese Comfort Women" 2014、「班・映画」：班志義『太陽がほしい』2015

* No.34の典拠は、檀谷廣一郎「[中国・桂林ルポルタージュ] 私には“日本鬼子”の子」『「慰安婦」強制連行』2008(所収) である。